

# 横瀬の里

11月1日 (金) 快晴

- ★ 10月29日は一日中雨が降り、寒い日になるという予報が出ていたので、11月1日に延期したが、そのため参加者は僅か4名と寂しい例会となった。しかし雲一つない秋晴れで、気温も20℃を越えて汗ばむほどで、静かな秋の里山を満喫してきた。
- ★ 横瀬駅に着いたのは10時9分。静かな農村風景であるが、新しいモダンな家が建つ住宅街の中を20分ほど歩いて9番札所・明智寺に着いた。如意輪観音を祀る小さな観音堂が建っているだけの質素なお寺である。9番の次は8番札所へ行く予定であったが、道を間違えて先に6番、7番へ行くことになった。明智寺から気持ちの良い木陰の坂道を下って横瀬川に出て、横瀬橋を渡った所が7番札所・法長寺である。平賀源内が設計したという秩父札所最大の規模を誇る本堂が建っている。本堂の中に観音堂があるという珍しい造りで、十一面観音菩薩像が安置されている。法長寺から10分ほど歩くと6番札所・ト雲寺である。果樹園の横の急な坂を登った先に小さなお堂が建っている。高台に建っているので見晴らしがよく、武甲山の眺めが素晴らしい。

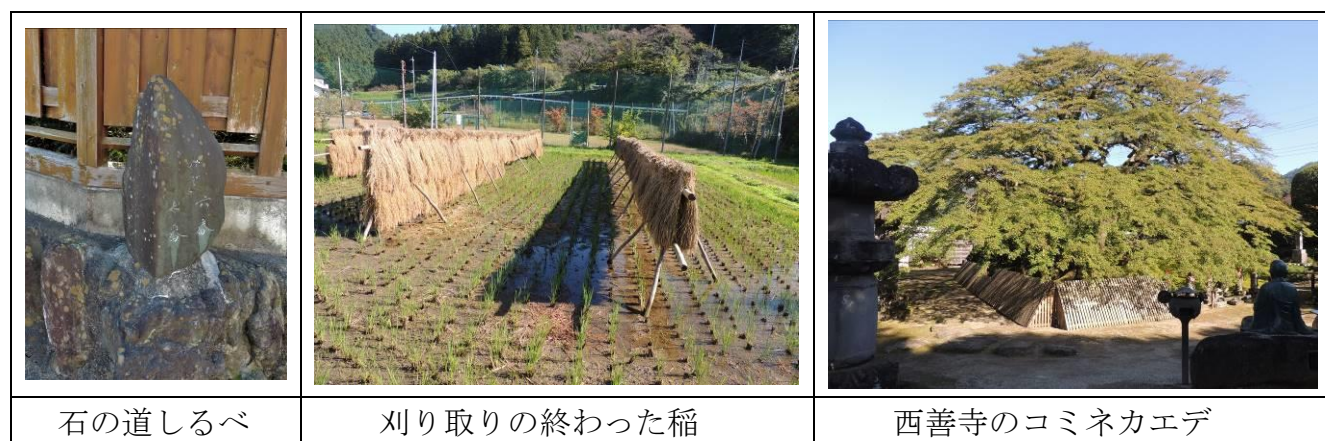


- ★ ト雲寺の近くに観光農園「小松沢レジャー農園」があった。ぶどう狩り、いちご狩り、しいたけ狩り、芋掘り、蕎麦打ち体験、魚のつかみ取りなどが出来、バーベキューも出来る食事処がある。ちょうど昼時だったのでここで昼食を取ることにした。新そばの季節なのでこれを頂い

た。久しぶりに美味しいお蕎麦を食べて大満足であった。平日なので閑散としていると思いきや団体客など大勢のお客さんで賑わっていた。収容人数 800 名だという。吃驚！！



★ 小松沢農園を後に 8 番札所に向かう。石に刻んだ古い道しるべがあったり、刈り取った稲を干してあったり、いかにも長閑な田園風景の楽しみながら約 25 分で 8 番札所・西善寺に着いた。山門をくぐると、まず本堂前庭の「こみねかえで」（コミネモミジ）の巨木に驚かされる。樹齢およそ 600 年、幹回り 2.9m、樹高 9m で新緑・紅葉の頃は特に美しいという。埼玉県指定の天然記念物である。新緑と紅葉の季節は拝観料が必要だそうである。恵心僧都作と言われる十一面観音坐像が本堂に安置してある。



★ 西善寺から横瀬駅に向かって西武線に沿って戻る。民家の庭や畑、田圃の畦道などには菊、シュウメイギク、バラ、ネジバナ、セイタカアワダチソウなどが咲き、ピラカンサや南天の実が真っ赤であった。季節外れのアジサイや彼岸花が咲いているのには驚いた。真っ青な秋空に映える十月桜の楚々とした花も美しい。



この付近一帯には三菱マテリアルのセメント工場や三菱セラミック工場があり、武甲山では発破の音が響いていた。

★ 西善寺から1時間ほど歩いて武甲の湯に着いた。金子正男さんが幹事だった20年程前に来たことがあるが、すっかりきれいになっていた。秋風に吹かれながらの露天風呂は実に気持ちが良い。汗も疲れもすっかり洗い流したあとの風呂上がりの生ビールがまた格別であった。横瀬発16時11分の電車に乗り帰途に就いた。秩父の山々の黒いシルエットの上には薄いピンク色の夕焼け空が広がり、それが次第に黄昏色に変わってゆき、やがてくっきりと三日月が輝きだした。飯能を過ぎる頃は日もとつぷりと暮れ、家に着く頃はもう真っ暗であった。



7 番札所・法長寺の門前で

参加者 小島恕雄、水野聰、水野博司、安村長生 以上4名

写真と文 小島恕雄